

水田たより 1月号

令和3年1月4日

桑名地域農業改良普及センター 西山、馬場、大野、鷺野
(TEL: 0594-24-3642)

米の品質低下要因

令和3年産では、需要減少や価格低下が予測され、所得確保のためには、売れるお米の生産(品質の向上)が求められます。品質の向上には、稲の土台となる根域の環境を整えておくことが重要です。土壌分析結果を参考に、冬期に土づくりを行い、丈夫で健康な稲を作りましょう。

■主な品質低下要因とその対策

低下要因	乳白	基白	背白	青未熟	胴割れ
原因	登熟 初中期 の高温・低温	登熟 後期 の充実不足	登熟 初期 の高温	早期落水 倒伏、早刈り	刈り遅れ 急激な乾燥 高水分籾の 高温乾燥、過乾燥
対策	適正籾数確保 基肥・穂肥の 適正施用 登熟期の水管理 (<u>間断灌水</u>)	早期落水防止 早刈り防止	適正籾数確保 早期落水防止	倒伏防止 早期落水防止 早刈り防止	早期落水防止 刈り遅れ防止 適正な温度での乾燥

品質向上にむけた土づくり

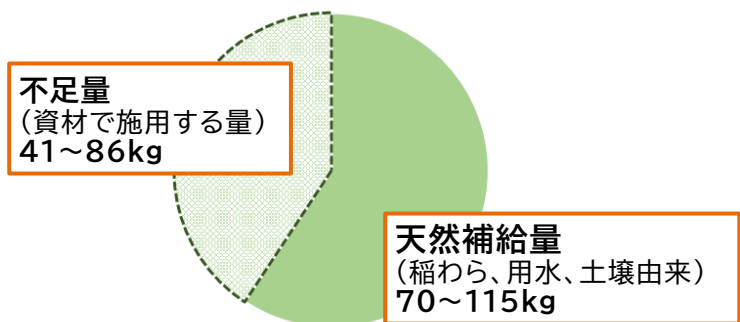
①ケイ酸資材の施用

ケイ酸は、米の充実向上や倒伏軽減に有効ですが、稲わらの還元のみでは不足が生じるため、毎年 41~86 kg/10a の施用が必要です。

ケイ酸の吸収量が最も多いのは幼穂形成期~出穂期ですが、以下の資材は溶脱しにくいので、冬期の施用でも十分な効果が期待できます。

稲作に必要なケイ酸量(10aあたり)

参考：みえの米ブランド推進会議「実践！田起こし」



<ケイ酸資材の例>

資材名	成分	施用量
けい酸加里プレミア 34	ケイ酸 34%、カリ 20%、微量元素	40~60 kg/10a
農力アップ	ケイ酸 20%、アルカリ分、鉄分、微量元素	60~100 kg/10a

②深耕の実施

深耕による作土層の確保は、根域拡大や養分吸収量の増加による品質向上だけでなく、耐倒伏性の向上、ごま葉枯病や秋落ちの対策にもなるため、冬期のうちに実施しましょう。

深耕の目安は 18cm 程度で、ブラウヤやパワーディスクなどを使用して反転させます。ロータリーしか所有されていない場合は、トラクタの速度を落としてゆっくりと耕起してください。

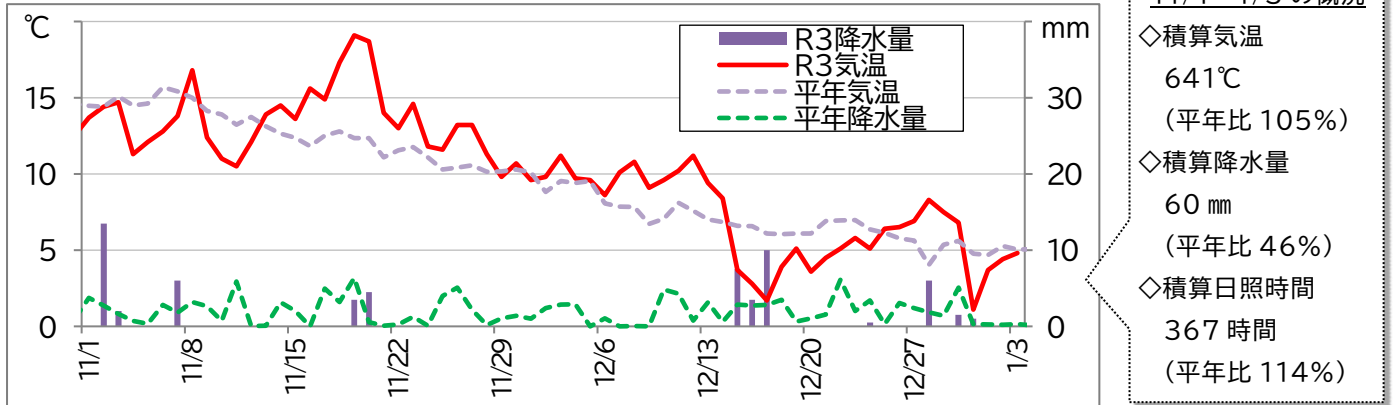
(裏面へ)

気象概要と麦の生育状況

今冬は、平年と比較して積算気温がやや高く、積算降水量が半分以下となっていました。12月に2度の降雪があり、気温も急激に低下したため、麦類の生育は停滞傾向となっています。

1月4日現在、いなべ地域の麦類は積雪の影響により、平年と比較して1~0.5葉程度の遅れが発生してしています。一方で、桑名地域の小麦では、平年と概ね同程度の生育が確保されています。

■気象概況



■現在の生育状況(11月上旬播種の場合、1月4日調査)

地域	品種	平年との比較		
		茎数	葉齢	葉色
桑名・木曾岬	小麦「さとのそら」	同程度~やや多	同程度(0~+0.5葉)	やや濃
	小麦「あやひかり」	やや少	やや晩(-1.0~0.5葉)	やや濃
いなべ・東員	大麦「ファイバースノウ」	やや少	やや晩(-1.0葉)	やや濃

麦の施肥管理(つなぎ肥)

いなべ地域では、茎数がやや少ないため、つなぎ肥を施用して分けつを促進させましょう。

桑名地域でも、生育過多によって肥料切れが起きやすいため、つなぎ肥を施用して葉色や茎数を維持していきましょう。

なお、**大麦**は硝子粒による品質ランクの低下(数量払いの単価低下)が課題となっています。**特に、緩効性肥料の場合は、2月以降に追肥を行うと硝子粒が増えやすいため、1月末までに追肥を完了させましょう。**

■緩効性肥料(麦エムコート 35 等)の場合

種類	時期	窒素目安量	施用量(オール14の場合)
小麦	1月下旬~2月中旬	2~2.5kg/10a	15~20kg/10a
大麦	1月上旬~1月下旬		

■分施の場合

(2~3月の穂肥の時期・施用量については、次号でお知らせします)

種類	時期	窒素目安量	施用量(オール14の場合)
小麦・大麦	1月上中旬	1.5~2kg/10a	10~15kg/10a



桑名普及センター LINE 公式アカウント 配信中!

桑名普及センターでは、LINE 公式アカウントを取得し、作物関係の情報を配信しております。ぜひ、右記 QR コードから友だち追加を行ってください。ホームページでは過去の水田たよりや他の情報も掲載しています。[桑名普及](#)でご検索ください。